

(別紙 12)

大学「人材育成強化科目」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	福島市消防本部・消防署
実習期間	令和 2 年 2 月 17 日 ~ 令和 2 年 2 月 21 日
学生氏名	橋本 翔
実習プログラム	1 日目：消防本部の概要、施設見学、消防を取り巻く環境、防火衣採寸 2 日目：放水訓練、防災講話、計画書の質問、救急出動要領 3 日目：救助隊指導同行、車両説明、救助訓練、救助隊業務同行・質疑、中間まとめ 4 日目：通信指令課、消防団概要、危機管理室、飯坂消防署見学、救急課・救急車の適正利用 5 日目：信夫分署見学、救助訓練見学、行政の視点から、まとめ
学び・気づき (300 字程度)	普段の生活からは気づくことのない発見ができ、防災の背景と本質に目を向けられた。具体的には、体験や見学を通して実際に見聞きすることで多くの情報から防災について考えることができたからである。イベントや行事での訓練の披露、デモンストレーションといったもの、施設見学の受け入れや講演会の実施等である。このように消防隊員のみにとどまらない住民の防災普及が防災の背景としてあることを学んだ。
今後に向けた 抱負 (200 字程度)	説明や体験をするなかで分からないことや疑問が浮かぶ場面には情報不足と知識不足を強く感じたので、今後は記事や本に目を通していく必要がある。また、採用試験に向けての勉強を今のうちから始め苦手や弱点の克服に努めていきたい。実習で教わった肢の切り方やその考え方を自分のものにしていきたい。より一層防災に携わる職に就きたいと感じたこの気持ちを忘れずに今後も取り組んでいこうと思う。
インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300 字)	実際の職場に置かれることでその場でしか感じることでできない雰囲気と一日の流れを知ることができ消防という職に対する固執したイメージや考え方が大きく変わる。また訓練に同行・体験することで、繰り返し行うことの大切さに気づくことができる。そのため、日常生活での繰り返しにも意味があると実感する。住民の安全が確保されるためにこういった努力がなされているかを知ることができる点が強い魅力としてあげられる。少しでも多くの人に防災に興味関心をむけてほしい。忙しいなか、インターンシップを受けて入れてくださった実習先の消防の方々には心から感謝の気持ちを表したい。

写真 (1~3 点)